

# 有田中央高等学校

実施日時	令和3年1月28日（木）、29日（金）
参加者	生徒85名、教職員24名、地域住民等3名 計112名
実施内容	出張！減災教室（ごりょうくん体験）、避難持ち出し袋、応急手当 パラコード編み、段ボールベッド組み立て・簡易トイレ作り、 アルファ米の調理と試食、県防災ナビの登録と閲覧 等

## ねらい

- 1 身近で発生する可能性のある自然災害に備えて防災意識を高めるとともに、地域防災の担い手として活躍できる人材を育成する。
- 2 様々な体験を通して、共助・自助等の意識を高め、主体的に行動できるよう知識や技術を身につけ、防災、減災について理解を深める。

## 主なプログラム・概要

### 1 「出張！減災教育」ごりょうくん体験

地震体験車「ごりょうくん」の名前の由来である、濱口悟陵についての学習をはじめ、大きな揺れを体感し、そのような大地震が来たときに身を守る行動や避難をするときに気をつけること、大地震に備え家庭でできることについて、グループで話し合いを持ち学習した。

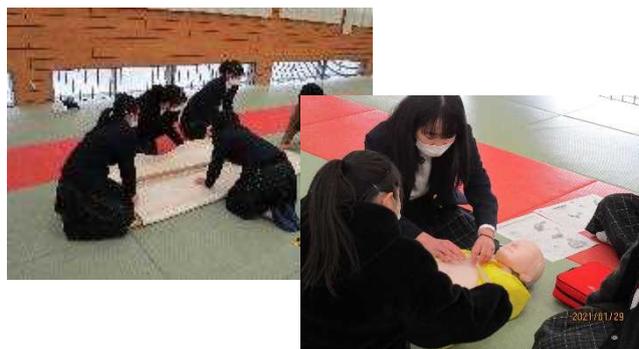


### 2 避難持ち出し袋の準備

避難持ち出し袋の必要性を知り、緊急時に持ち出す必要のあるものについて考えさせた。グループで実際にいろいろなもののなかから必要なものを選び、詰める体験を行った。その際家族や状況などのいろいろな設定についても考えた。防災ハンドブックに推奨されている非常持ち出し品と非常備蓄品のチェックリストを使い、理解を深めた。

### 3 応急手当

非常時のけがの対応や傷病者の運搬方法、AEDの使用など体験を行った。三角巾を用いてけがをした腕を固定、つり下げの方法を学び、その後ポリ袋やTシャツで三角巾を代用してけがの手当をする方法や竹と毛布を使用した搬送法などをグループで体験した。



#### 4 ひもの結び方、パラコード編み

災害時に活用できるひもの結び方や、キャンプ用のひもを利用して、コンパクトに長いひもを携帯できるボトルホルダーを編んだ。緊急時でのひもの活用方法を知り、理解を深めた。また市販のもので防災ブレスレットとして、笛などがついたグッズを紹介した。



#### 5 段ボールベッド組み立て・簡易トイレ作り

災害時の避難場所で使用できる段ボールベッドや簡易トイレの組み立てなどを体験した。簡易トイレは段ボールを重ねて作り、一度座ってみて感覚を確かめた。ベッドにも横になってみて体験した。避難場所でも睡眠や休息トイレなどは快適な空間として確保できることが重要であることを知り、そのための知識や技術を養った。



#### 6 アルファ米の調理と試食

アルファ米を調理して試食した。水で戻したものと、湯で戻したものを食べ比べてみた。味やかたさ、食べやすさなどを比べ、非常時の食事について体験することができた。

#### 7 県防災ナビの登録と閲覧

県の防災ナビを防災ハンドブックのQRコードからダウンロードし、津波シュミレーションなどを閲覧した。



#### 8 南海トラフ地震啓発ドラマ「その日、その時」視聴

高知県企画制作のものを視聴した。そのなかで①気づいた点や問題点②自分ならどうするのか③行動にうつせることは？と3つの項目について考えた。1～7のワークショップの事前学習とし、防災や減災、緊急時には自分たちには何ができるのか考える機会とした。

## 参加者感想文

- ・いざとなれば自分も人の役に立てる人になりたいので、この授業をふりかえろうと思った。
- ・今までよりは災害が起こったらどうしたらいいかわかるようになった。備えをしっかりとしようと思った。何も知らずに災害が起こったときパニックになるよりいろいろ確認したり準備しておいて冷静に避難できるようにしたい。
- ・普段防災のことを話したり考えたりすることが少ないから、今回の講座を受けてすごく勉強になった。家族と一緒にどこに集合すればいいかなどじっくり話してもっと防災のことを詳しく知ろうと思った。
- ・避難時の持ち出し袋や家具の固定など自分たちでできることはきちんとしておこうと思った。防災ナビのアプリも活用したい。
- ・防災ナビで家族グループを作っておくと災害の時に家族がどこにいるかわかるのを聞いて、家に帰ってすぐに母に伝えました。今回の学習で初めて知ることたくさんあった。応急手当はいつでも活用できるし、災害はいつ起こるかわからないから、学んだことをできるようにして役に立ちたいと思った。
- ・起震車で大きな揺れを体験して、このような状態が1分も続くと考えたら、生きていられるか不安になった。応急手当では助け合うことが必要だと学んだ。服を使って腕を固定することを経験して、少しでも誰かの役に立てることができたらいいなと思いました。

## 成果と課題

### 【成果】

- ・昨年度よりも担当する教員を増やし、実施することできめ細かい指導をすることができた。
- ・各クラスを3～6人の班に分けて行動させた。自分たちで考えて取り組む活動もあり、非常時のイメージをしながらそれぞれがコミュニケーションをとって臨む姿が見られた。
- ・アルファ米の試食では、味や食べやすさだけでなく、他にもどのような備えが必要なのか考える生徒もおり、発展的な学習になった。
- ・どの講座も講義形式ではなく、体験を中心としたものだったので、内容や方法などの説明をよく聞き、興味を持って取り組むことができていた。講座のスケジュールは過密だったが、生徒たちは一生懸命活動に取り組み、意欲的だった。
- ・自分の家では備えができていないので、この授業で学習したことを活かして備えたいという意見も多数あり、非常時のことをイメージし、いつ起こるかわからない災害の備えの大切さを実感でき、高校生として自分の命を自分で守ることや助け合うことの重要性などにも気づくことができた。

### 【課題】

- ・段ボールベッド、AEDなど町から借りたものもあったが、壊れやすいものは購入したほうがよかった。
- ・講座の時間設定をもう少し工夫する必要がある。
- ・内容の検討や運営については、1学年の担当教員が中心となりすすめたが、今後は、生徒と一緒に企画から取り組めるようにしていきたい。